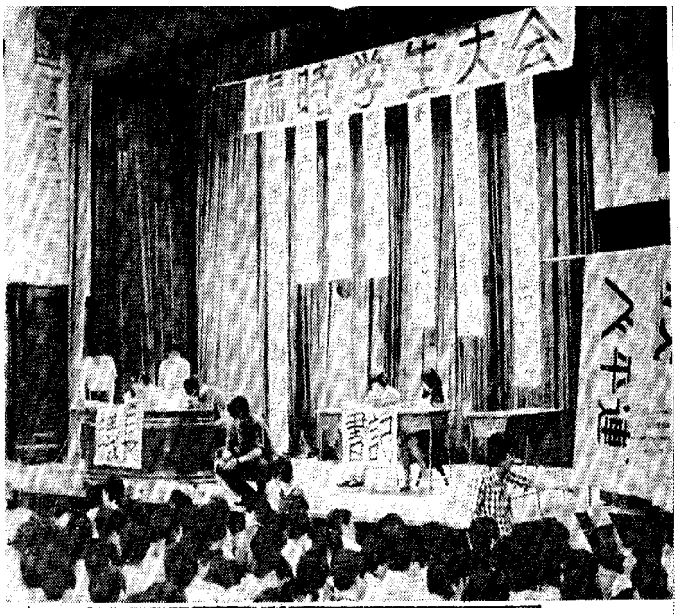
スト権を確立

1部臨時学生大会

方針は〝全共闘（各地区）〟一任

賛成三七七、反対二〇八票

学苑会、7月1日に大会



カットとは十七日記念館で開催された一部学生大会。ここでスト権が確立された。下は和泉校舎の本部封鎖。十一日和泉全共闘のもと、一号館の事務室がバリケード封鎖された。

法学部の学生会臨時学生大会（長善一委員長代行＝二部学生自治会）は、十七日午後二時四〇分から本校記念館で開催され、中執の提案したストライキ案を賛成三七七票で可決した。しかし、スト権の行使は全学共闘会議結成が若干遅れているため、二十日以降になるものと見られている。また、学苑会（浜谷久雄委員長＝二部学生自治会）もこれまで行なってきた団交・総決起集会などをふまえて七月一日に臨時学生大会を開くことを公示した。

会場の記念館と予備会場の九一番教室には、折からの雨にもかかわらず、約三〇〇人の学生がつめかけて大会のなりゆきを見守った。

大会は議長に松田、瀬下の両君を選出して二時四十分から開始された。まず長善一学生会中執委員長代行が議案書を読み上げ、スト権の提案を行った後、議事運営委員会から出席代議員が定足数六六〇名の過半数を上回り、本大会が成立した旨の発表がなされた。引き続いて保釈中の両川敏雄中執厚生部長のあいさつと、工学部助手連絡会議からのアピールが紹介され、満場の拍手を受けた。

四時過ぎ本格的討論に入り、会場は熱っぽい雰囲気につつまれた。議論は①中教審・大学立法には反対だがバリケード・ストライキにも反対する――という意見、（体育会や民青系学生）や、②現在の本学はまさに中教審大学そのものであり、中教審・大学立法に反対するなら当然バリケードを組むべきだ――という意見（反日共系学生）が出て、たびたび紛糾した。さらに前者は方法として教職員・学生が一体となって国会へデモを行なうことを主張し、後者はそういうデモは現在的に何の意味も持たない、とやり返した。また③初めから六項目の要求項目を掲げるのはおかしい。闘争目標を中教審・大学立法粉砕一本にしぼるべきだ（反中執派）という意見も出された。この討論で日共、反日共の対立点、さらには反日共内部の不一致点が明確に示された。

討論の最中、興奮した体育会の学生が演壇の前でスト派の学生と一時もみ合う一幕もあった。また八時過ぎには日大全共闘から「携帯無線機を持った私服刑事が会場に潜入している」との連絡が入り、一瞬、緊張する場面もあった。

八時四〇分、議場が閉鎖され、「中教審・大学立法粉砕、六項目要求貫徹に向けての学ストライキ（方法、期限は各地区全共闘に一任）」の中執案の賛否が問われた。緊張の三〇分が過ぎ、瀬下議長が結果を発表――学ストライキ賛成三七七票、反対二〇八票、保留二三票、棄権一〇票（大会委任）で可決されました」。この瞬間、割れんばかりの拍手とブブキが舞った。

続いて「中教審・大学立法粉砕」のスローガンを拍手で採択し、インターを合唱して臨時学生大会は閉会した。

その後、約一〇〇〇人が本学前通りを激しくデモ行進を行なった。

また、二部学苑会は七月一日にスト権確立のための臨時学生大会を開くことをこのほど告示した。長善一学生会中執委員長代行談

圧倒的多数をもって、スト権を確立できた。これをふまえて、特に本校地区を重点に、全共闘運動を展開していく。